

「お金」って何だろう？ 考えれば考えるほど訳がわからなくなつて、難しくなつて、やっぱり最後は訳がわからなくなる。

僕の亡き父親が、「お金はね、ちゃんと使えば自分の所に戻ってくるものなんだよ」とか、「お金は自分たちが大好きで、お金がある所にどんどん集まってくるんだよ」とか言っていたけれど、いまだに僕は「本当なのか？ 適当なのか？ はっきりとわからない事を子供に教えちゃつて大丈夫？」と思つたりする。また、「お金を稼ぐつてというのは、汚い行為だから神社にお賽銭して浄財するんだよ」とも言っていた。「マジ本当!」まあ、他の人からも同じような事を聞いたこともあり、とりあえず、ひねくれてもよくないので、信じてたままに奉納とか浄財はしている。

でも、本当のところはお金の正体は全く理解していない。

僕の漫画『ジョジョの奇妙な冒険』に「スタンド」という能力が出てくるのだが、それは超能力のような目には見えないけれど「存在している力」^{パワー}を、具体的に目に見える形あるものとして、絵で描いている。そこで、「お金」というものの能力を、「スタンド」として絵でどう描こうかと考えてみた。

まず、お金には「コインと紙幣」があり、それは物と物との交換を数字に置き換えるこ



絵・江口修平

「お金」と「スタンド能力」について

荒木飛呂彦

とで便利にするために生まれたのだから、この「コインと紙幣」の姿こそ既に「スタンド」の概念と違ってよい形だ。絵に描けるッ！でも、さらに考えていくと、お金は物との交換だけでなくアイデアや欲望といったものにも支払われるし、見栄とかプライドといった役に立たないものにも使われる。そもそもデータ上の数字としてのお金は、この世にちゃんと、本当に全部存在しているのか？ お金は流通の過程で手数料を取られたり、証券だの宝石だの土地だのに姿を変えたりして、かなり得体が知れない。

僕の考えた「スタンド」能力にはルールがあつて、①基本的に一人が一つのスタンドを持つ。②距離が遠くなれば、力も弱くなっていく。③スタンドの姿やデザインは基本は変化しない。でも、「お金」はひとつでいくつもの能力があるし、世界の遠く離れた場所でも同じような力を発揮できる。その姿もどんどん変えていける。「スタンド」のルールに違反する存在だ。「スタンド」のように「お金」をどうやって絵にすればよいのか？ 出来るのかなあ……。やはり考えるほど訳がわからなくなるといのが、今の結論。お金の全体像を理解できて、絵に描けるなら、とても良いなあ。

あらか・ひろひこ●漫画家。1960年生まれ。1987年より「週刊少年ジャンプ」で連載を開始した『ジョジョの奇妙な冒険』は絶大な人気を博して誕生30年を突破、シリーズ累計発行部数は1億部以上。現在第8部『ジョジョリオン』を漫画誌「ウルトラジャンプ」に連載中。高級ブランドとのコラボや、仏伊での展覧会開催など、国際的な評価も高い。

